

## 第46回維持管理・環境管理専門委員会

## 議 事 録

●日時 : 2022年6月17日(水) 10:00～12:00

●場所 : WEB会議

## ●資料

資料－1. 前回の議事録

資料－2. 2022年度の協議会と本委員会の予定

資料－3. 荒川の草花の育て方マニュアルの作成報告

資料－4. 2022年度の維持管理活動の報告

資料－5. 2022年度の連携・協働活動の報告

資料－6. 維持管理・環境管理計画(案)

資料－7. 維持管理活動の検証とモニタリング方針について

資料－8. 2022年度の維持管理活動の計画

資料－9. 2022年度の連携・協働活動の計画

資料－10. 協議会の資金確保策について

資料－11. 年間計画にない企画を実施する際の進め方について

- ① 7月の委員会は、予定どおり開催しませんでした。
- ② チガヤマットの使用について、引き続き検討を進めていきます。
- ③ 9/21にオギ群落再生地について維持管理作業を実施しました。上池からのオギの移植については、引き続き検討を進めます。
- ④ 市民モニタリングについて、後ほど資料5でご説明します。
- ⑤ 1月の巡視で、中池、下池の確認も予定しています。
- ⑥ エコプロ2022は12/8に参加を予定します。
- ⑦ 学校との調整のうえ引き続き検討を進めていきます。
- ⑧ サイサン環境保全基金の助成について、委員会です承された内容のとおり、申請を行いました。

## 【議事結果】

- ① サイサンの申請内容に特段大きな変更が無いので、7月予定の維持管理委員会は開催しないこととする。
- ② 中池維持管理活動のうち、チガヤ群落の再生箇所は作業範囲が広いため、効率的なチガヤ群落の再生に向け、一部チガヤマットを使用することを検討していく。
- ③ 中池のオギ群落について現地状況によっては上池のオギを移植予定である。上記にあたって作業計画の変更があれば事務局より報告する。
- ④ 市民モニタリングでは、調査方法(調査箇所や写真の撮り方)、希少種の情報の取り扱いについて検討が必要である。
- ⑤ 今後、上池・下池の維持管理についても、中池と同様にボランティア募集する予定である。1月の巡視では、上池、下池を含めたボランティアで活動する箇所を確認するものとする。
- ⑥ エコプロ2022は例年通り参加することし、参加日は開催日程12月7日～9日であるが、12月8日に参加予定とすることを確認した。
- ⑦ ボランティアを取り込む仕組みの一つの案として、維持管理活動参加者に東京デザイン専門学校との連携により制作したグッズ等の提供についても検討していく。
- ⑧ 2022年度の助成申請内容(案)は了承された。
- ⑨ 年間計画にない自然再生活動の進め方(案)は了承された。

## 【主な議事内容】

- 資料－１． 前回の議事録  
(質疑応答なし)
  
- 資料－２． ２０２２年度の協議会と本委員会の予定
  - ・サイサンの申請内容に特段大きな変更が無いので、７月予定の維持管理委員会は開催しないこととする。
  
- 協議会の取り組み紹介動画の作成報告（画面共有のみ）
  - ・協議会の取り組みを紹介する動画は、今後も作成していく。
  
- 資料－３． 荒川の草花の育て方マニュアルの作成報告
  - ・「荒川の草花の育て方マニュアル」は、各委員に送付して、適宜更新して改良していく。
  
- 資料－４． ２０２２年度の維持管理活動の報告
  - ・中池にて確認できたオカトラノオ属の植物は、イヌヌマトラノオの可能性があるので、北本学習センターの専門家に同定して頂く。
  
- 資料－５． ２０２２年度の連携・協働活動の報告
  - ・今後、協議会メンバーで桶川西高校の科学部及び校長先生を訪問する機会を設けたい。
  
- 資料－６． 維持管理・環境管理計画(案)
  - ・中池のオギ群落について現地状況によっては上池のオギを移植予定である。上記にあたって作業計画の変更があれば事務局より報告する。
  - ・中池維持管理活動のうち、チガヤの移植は作業範囲が広いため、効率的なチガヤ群落の再生に向け一部チガヤマットを使用することを検討していく。チガヤマットの導入方法や、マットに使用するチガヤの遺伝子問題などは、協議会の中で検討していく。
  
- 資料－７． 維持管理活動の検証とモニタリング方針について
  - ・維持管理に関する市民モニタリングでは、調査方法（調査箇所や写真の撮り方）を整理することが必要である。
  - ・希少種の情報について留意することが必要である。このため、調査で確認された希少種情報の取り扱いや外部協力者へのアプローチは要検討項目である。
  - ・埼玉昆虫談話会、コンサルタント以外にも調査に入っている人を見受けるので、素性を見極めたうえで参加を促すことも検討してほしい。
  - ・p.3では、維持管理活動に関する調査は実施者が定まっていない。このため、各々が実施した調査結果を管理する仕組みづくりが必要である。例として、簡易な調査の報告様式を作成することが挙げられた。

● 資料－８．２０２２年度の維持管理活動の計画

- ・今後、上池・下池の維持管理は中池と同様にボランティア募集を考えている。1月の巡視では上記の活動場所を確認予定である。
- ・p.14に記載の通り、「ボランティアを取りこむ仕組み」として維持管理活動参加者に景品を贈呈する案を出した。景品の内容としては、例として、東京デザイン専門学校と連携により制作するグッズを挙げた。グッズの制作に限らず、来年度の東京デザイン専門学校との連携内容について、ご意見があれば、ご連絡を頂きたい。
- ・ボランティア参加者に「自然再生に貢献できる行為」と「自然破壊に繋がる行為」をそれぞれ理解して頂くことが、自然再生活動を進める上で、ボランティアを受け入れるときに重要となる。
- ・企業の採用活動の一環で、社会貢献活動への参加の有無を学生に求める場合もあるようなので、協議会としての受け入れの検討が必要である。
- ・維持管理活動の参加者へ協議会会長の了承を得てボランティア証明書を発行することとしている。荒川上流河川事務所の管内全体で社会貢献活動を支援する仕組みがあるとよい。

● 資料－９．２０２２年度の連携・協働活動の計画

- ・エコプロ2022は例年通り参加することし、参加日は開催日程12月7日～9日であるが、12月8日に参加予定とすることを確認した。

● 資料－１０．協議会の資金確保策について

- ・2022年度の助成申請内容（案）は了承された。
- ・今年度の中池におけるチガヤマットの移植は、チガヤマットの調達や来年度の助成金申請について、議論しておく必要がある。

● 資料－１１．年間計画にない企画を実施する際の進め方について

- ・年間計画にない自然再生活動の進め方（案）は了承された。
- ・堂本委員長より、荒川中下流域の交流活動（カラナデシコの里帰り）について、取組みを予定している旨、報告があった。

以上